

2019年度 自己評価まとめ

2019年度 テーマ ひびきあう～言葉に満たされて

- ①子ども主体の保育において
- ②職員の意識共有に向けて
- ③保護者・地域との相互理解の為に

職員各々が、今年度の課題に沿って1年を振り返り、以下の項目ごとにA・B・C・Dの4段階で自己評価を行った。

A・・・よく出来た B・・・まあまあ出来た C・・・あまり出来なかった D・・・まったく出来なかった

1、子ども主体の保育に向けて～出会いと関わりの中で

一人ひとりの子どもが様々な出会いと関わりの中で主体的に過ごせるように、丁寧な対話と遊びの充実を目指して保育に当たってきた。特に今年度は、自園の保育を「保育活動確認書」という形で、活動毎に、基本的な考え方、願いや必要な配慮等を話し合い、共通理解して文書にまとめた。それぞれの保育者が、思いを持って保育に当たることが出来たと感じている。個々の保育教諭が遊びの提案をする中で、子ども達が充実して遊び込む姿や、異年齢の関りが自然にできていたり、子ども達自身で「こうしたい!」と遊びを広げていく姿からも、その成果を感じている。

一方で、経験年数の少ない保育者たちにとって、“見取り”や“個々の子どもに合った援助”という点で自信を持つことは難しく、様々な葛藤や迷いを感じながら保育を行っていたと、今回の自己評価でBが多く、Cも数名いたことから予想される。しかし、その迷いや葛藤は保育者が子どもと真剣に向き合う時、必要不可欠な思いであり、大変重要な感情である為、それぞれ自分なりの関わり方で試行錯誤したり、他の保育者と共に考える中で、一つずつ向き合いながら子ども一人ひとりとの関りを大切にしていたと捉えたい。それぞれが抱く、迷いや葛藤を共有し、連携して保育に当たり、保育者集団として常に成長し続けられるよう今後も努めていきたい。

園として
の評価

A

保育 教諭 23名 (正職16 名・パート 職員7名)	①保育者は子どもを指導するものではなく、子どもに仕えるものであることを自覚して保育にあたる事が出来た。(例：上から目線で子どもに接しない。子どもの話に耳を傾ける。名前呼び捨てを止める。等)	A:10/23	B:13/23	C:0/23	D:0/23
	②一人ひとりの子どもの家庭状況、健康状況、発達状況を把握し、子ども理解に努めた。	A:13/23	B:10/23	C:0/23	D:0/23
	③日々の保育の中で、一人ひとりの子どもの遊びや生活の様子をよく観察し、「見取り」を大切に、保育にあたるよう心掛けた。	A:10/23	B:10/23	C:3/23	D:0/23
	④子ども主体となっているか、保育を振り返りつつ、それぞれの子どもにあった援助を行った。	A:10/23	B:11/23	C:2/23	D:0/23
	⑤研修の必要性を意識しつつ積極的に取り組む	・園内研修では積極的な発言を心掛けた。	A:6/23	B: 3/23	C:5/23
・外部研修では、自らの意識を高めるだけにとどまらず、参加できなかった他の職員に学びを伝えることへも意識を向ける事が出来た。		A:4/23	B: 8/23	C:3/23	D:1/23 (該当しない職員 7名)
・参加しない職員は、研修報告書を読むことはもちろん、疑問点や感想を述べ合うように努めた。		A:5/23	B:9/23	C: 3/23	D:1/23 (該当しない職員 5名)

上記以外の職員 9名	①園の方針や保育について理解し、子ども主体の保育を意識しつつ、それぞれの職務に取り組むことが出来た。	A:4/9	B:5/9	C:0/9	D:0/9
	②一人ひとりの子どもを知り、できる範囲で関わりを多く持つよう努めた。	A:1/9	B:7/9	C:1/9	D:0/9
保護者の声 (連絡帳より抜粋)	・初めての体験や普段の様子等、先生たちが楽しみながら見守ってくれているのがとても嬉しいです。				
	・行事の際、普段の様子を見ることが出来て良かったです。のびのびと歌ったり、踊ったりする姿を見て安心しました。				
	・登り棒の上に座っている子がいる時に先生が側にいないことがあり心配に感じました。				
	・手洗いの指導は、声を掛けるだけでなく一人ひとり見て欲しい。				
	・異年齢の関わりがあることで、小さい子のお世話をしたりなど、家庭では見られない一面があり、良い機会が与えられていると感じています。				
・本当に大切な友達が出来て楽しそうに登園してくれているのでホッとしています。					

2、職員の意識共有に向けて

「全員が一つの家族のような園」を目指し、子どもとの関係はもちろん、職員間も関係づくりや雰囲気づくりを意識して過ごしてきた。自分の担当部分のみではなく、他の担当職員とも互いに認め合い、気づき合いながら、良い連携と意識共有の為に努めることが出来た。特に、子どもの給食時間の過ごし方や、園外保育時など、気づきや提案を都度出し合いながら、保育者同士だけではなく、給食スタッフ、バス運転スタッフとも良い連携で保育に繋げることが出来た。また、シフトによる勤務の為、職員同士の伝達事項等は、それぞれに工夫しながら伝え合おうと意識的に行っていた。保育スタッフは、互いの動きを把握し、連携しながら保育以外の業務に取り組めるよう、シフトについても話し合う中で、より良いスタイルができるよう工夫を重ねていた。今後も、様々な職員の視点から発信し合うことで、園としてより良い環境となるように努めていきたい。一方で、個人の自己評価では積極的に発信できなかった (C)としている職員もいた。職員間の意識共有において、伝達事項だけではなく、常に気づきを大切にすることや、発信の仕方の工夫等が必要と感じている。全員の情報共有が難しい場合もある為、今後も都度、課題に向き合いながらより良い方法を考えていきたい。

園としての評価	B
---------	----------

保育教諭 23名 (正職16名・パート職員7名)	①園の職員全体が家族であることを意識しつつ、互いを理解し合いながら連携に努めた。		A:15/23	B:8/23	C:0/23	D:0/23
	②報告・連絡・相談の意識を常に持っていた。	・園の職員全体が同じ思いで子どもを保育できるよう、積極的な情報交換の機会を自ら作り、情報を発信するよう心掛けた。	A:9/23	B:12/23	C:2/23	D:0/23
		・疑問点はそのままにせず、色々な職員に尋ねたり意見を求めたりすることが出来た。	A:14/23	B:7/23	C:2/23	D:0/23
	③職員会議では、自らの意見を持ち、積極的な発言を心掛けた。		A:7/23	B:4/23	C:5/23	D:1/23
①園の職員全体が家族であることを意識しつつ、互いを理解し合いながら職務に取り組むよう努めた。		A:8/9	B:1/9	C:0/9	D:0/9	

上記以外の職員 9名	②保育教諭との連携を図りながら、子ども達にとってより良い環境を目指して取り組むことが出来た。	A:5/9	B:4/9	C:0/9	D:0/9
	③問題発生時や必要事項は、園長に報告、連絡、相談し、改善の為に行動することが出来た。	A:6/9	B:3/9	C:0/9	D:0/9
	④疑問や提案等、自分から積極的に発信することが出来た。	A:3/9	B:5/9	C:1/9	D:0/9

3、保護者・地域との相互理解のために

家庭との連携を通して、保護者と共に子どもの育ちを分かち合うことを大切に過ごしてきた。「全職員で全園児を見る」をモットーに、それぞれの職員がクラスや担当に関わらず、喜んで子どもたちと関り、職員同士でも育ちを共有していた。保護者とは送迎時や連絡帳、懇談等で随時コミュニケーションを取りながら互いに理解を深め、子どもの育ちを分かち合うことが出来たと感じている。しかし、こちらの思いや考えを十分に表現しきれないこともある為、今後も保護者の方々が不安や疑問をすぐに園に伝えられるように、信頼関係を深められるように、コミュニケーションと雰囲気づくりに励んでいきたい。

地域との関わりでは、近隣の小学校との交流や、中学・高校等の職業体験・インターンシップの受け入れを通して、異年齢の交わりの中を作ったり、「保育の仕事」について伝える場を持つことで、とても良い交わりが出来た。また、地域開放「わんぱく広場」では、毎回20組程の未就園の親子が参加し、園児と交わりながら遊んだり、親子で好きな遊具で楽しむ場を作ることが出来た。保護者同士の良い交わりの中にもなっていたことを感じる。小・中・高との連携や地域開放等は、相互理解を深め、地域の施設として役割を果たせる良い機会として、今後も大切に続けていきたい。

園としての評価	A
---------	----------

保育教諭 23名 <small>(正職16名・パート職員7名)</small>	①保護者と、子どもの様子や成長について積極的にコミュニケーションを取りながら、互いに温かなまなざしの中で子どもの成長を見守ることが出来るように努めた。	A:14/23	B:8/23	C:1/23	D:0/23
	②「全職員で全園児を見る」という方針のもと、担任や他の職員と連携しながらも、様々な保護者とのコミュニケーションに心掛けた。	A:11/23	B:8/23	C:4/23	D:0/23
	③「園だより」「まど」「ブログ」等を通して、園の方針や子どもの成長の様子など、わかりやすい情報発信をするよう心掛けた。	A:9/23	B:9/23	C:2/23	D:0/23
	④地域開放で来園した親子が、居心地の良さを感じて遊べるように、また園の事や子育ての事等話しやすい雰囲気を作ることを心がけた。	A:7/23	B:10/23	C:3/23	D:1/23
上記以外の職員 9名	①「全職員で全園児を見る」という方針のもと、担任や他の職員と連携しながらも、できる範囲で様々な保護者とのコミュニケーションに心掛ける。	A:2/9	B:6/9	C:1/9	D:0/9

保護者の声
(連絡)

- ・バス通園で、担任と顔を合わせる機会が少ないが、連絡帳で日々の様子を教えてくれるので嬉しい。
- ・連絡帳の取り違えがあった為、個人情報なので特に取り扱いを注意してもらいたい。

帳より 抜粋)	・家庭での様子、子どもに対しての思いや不安に思っていること等、担任の先生に気軽に話せるようになった。
	・持ち物が壊れてしまい、そのことについて先生から何も話がなかったので心配になった。

◎業務に対して(保育教諭以外の職員 9名)

①自分の職務にやりがいを感じ、責任を持って全うすることが出来た。	A:8/9	B:1/9	C:0/9	D:0/9
②計画性をもって、職務に取り組むことができた。	A:7/9	B:2/9	C:0/9	D:0/9
③仕事を効率的に行えるように意識して取り組むことが出来た。	A:6/9	B:3/9	C:0/9	D:0/9
④清潔で整った職場環境を保つ事を意識して過ごすことが出来た。	A:5/9	B:4/9	C:0/9	D:0/9
⑤計画に対して、定期的に振り返り、向上意識を持って取り組むことができた。	A:5/9	B:3/9	C:1/9	D:0/9
⑥職務上知りえたプライバシーに関する情報等の秘密を守ることを意識して行うことが出来た。	A:8/9	B:1/9	C:0/9	D:0/9

総合評価

今年度は「ひびきあう～言葉に満たされて」というテーマのもと、3つの課題目標に対して振り返った。子ども一人ひとりが主体的に過ごせる保育、そして、集う者皆が生き生きと響き合えるような園を目指して、職員同士協力し合いながら1年を過ごせたと感じている。振り返ることで、課題も見えてきたが、今後も「子どもを一番に考えた、子どものための園」である為に、職員の協力体制を強化し、一人ひとりの意識の向上を目指していきたい。これらの反省を踏まえ、次年度は、以下を課題として取り組んでいきたい。

2020年度 テーマ **心が満たされる**

課題

- ①子ども一人ひとりとの丁寧な関り～心の育ちに目を向けて
- ②満たされる「遊び」～環境の充実をめざして
- ③職員のチーム力強化～多様な個性で思いを一つに